

## 本校での中心的な取組

### 教員による教材の提示

デジタル教科書、画像の拡大提示や書き込みを加えたもの、動画などの視覚的で分かりやすい教材を活用して、導入時の児童の関心・意欲を高め、学習課題を提示、説明する。

### 協働での意見整理

タブレットPCを用いてグループ、学級内での複数の意見・考えを共有し、話し合いを通じて思考を深めながら協働で意見交流・整理を行う。

### 発表や話し合い

学習課題に対する自分の考えを、タブレットPCや実物投影機を用いてグループや学級全体に分かりやすく提示して、発表・話し合いを行う。

タブレットPCやプロジェクト用いて、  
個人の考えを整理して伝え合うことにより、思考力や表現力を培ったり、  
多角的な見方・考え方に触れたりすることが可能になった。

## ご指導頂いた講師の先生

帝京大学大学院教授 中田 正弘 先生  
東京学芸大学教授 森本 康彦 先生

元全国小学校生活科総合的な学習教育研究協議会会長  
落合第四小学校第十七代校長 船田 信昭 先生  
白百合女子大学教授 神永 典郎 先生

## 研究に携わった教職員

### 平成30年度

校長	本間 基史
副校長	中村 理明
1年1組	岡村 頼子
2年1組	関 理絵
3年1組	星 尚美
4年1組	川上るり子
5年1組	山本 将司
6年1組	藤江 智美
少人数(算数)	有泉 力
音楽	小田 与志子
図画工作	村井 洋子
養護	小林 梓
栄養士	横田 真由
学習指導支援員	砂川 洋子
特別支援教室専門員	伊藤 ひろみ
事務	西形 喜一

用務	岸 真人
講師	宮本 伊美子
特別支援教育推進員	児玉 昭
まなびの教室	中島 逸子
スクールカウンセラー	久保 薫
スクールコーディネーター	高橋 奈鈴
図書館支援員	宮崎 詩乃
図書館ボランティア	赤羽根 明子
	片山 昌義
	田村 汐帆理
	原 ゆかり
	馬場 博美
	梅田 彩
	山下 美也子
	矢沢 万示
	若林 佳布止

### 平成29年度

中里 満晴 馬見塚 拓也 梅本 加奈子 津田 沙矢香 飯塚 昌史 梶 香織 船戸 紗良

平成29・30・31年度 新宿区教育委員会教育課題研究校  
平成30年度 東京都プログラミング教育推進校

# 主体的・対話的に学ぶ児童の育成

～ICTを効果的に活用した生活科・社会科・プログラミング教育～



## はじめに

校長 本間 基史

本校は、「主体的・対話的に学ぶ児童の育成～ICTを効果的に活用した生活科・社会科・プログラミング教育～」を研究主題に研究を進めてまいりました。

ICTを活用することによって、学びを深めること、対話を増やすこと、児童が主体的に学べるようにしようと確認してきました。

対話的に学ぶとはグループでタブレットPCを囲み、自分の意見を伝え、考えを共有し、協議しながら話し合う。自分の調べたことをプレゼンにまとめ発表する。ソフトを活用し学級全員の意見を確認しながら、話し合いまとめていく姿をイメージして授業をデザインしていきました。

本校のICTを活用した研究の成果が少しでも皆様のお役に立てれば幸いです。

最後にこのような貴重な研究の機会を与えてくださった新宿区教育委員会、そして今までご指導いただきました講師の先生方に心より感謝申し上げます。

平成30年10月17日

新宿区立落合第四小学校

**児童の実態** 学力の基礎・基本は定着しているが、学習に対する主体性・協働性に課題が見られる。

**研究主題**

**主体的・対話的に学ぶ児童の育成  
～ICTを効果的に活用した生活科・社会科・プログラミング教育～**

**育てたい力**

- ・問いをもてる力
- ・問いを追究する力
- ・自分の考えを表現する力

見通しをもって学ぶ  
友達と協働しながら学ぶ  
自己の学びを振り返る

**目指す児童像**

**低学年**

- 活動や体験を通して、問いをもてる子
- ICTを活用して問いを追究する子
- ICT等を活用して、気付きを相手に伝え合えることができる子

**中学年**

- 自分の生活と関連付けて問いを見つけられる子
- ICTを活用してすすんで問いを追究する子
- 調べたことをもとに話し合い、ICT等を活用しながら、進んで考えを表現する子

**高学年**

- 社会的事象に関心をもち、問題解決への見通しをもつ子
- ICTを活用して、友達の考えを知ったり比較したりして、自分の考えを深める子
- 調べたことをもとに話し合い、ICT等を活用しながら、多角的に表現する子

**研究仮説**

生活科・社会科・プログラミング教育の学習において、効果的にICTを活用し、児童が自ら問題意識をもてるような働きかけや他者と協働しながら課題を解決できるような指導の工夫を教師が行うことで、主体的・対話的に学ぶ子が育つのではないかと。

**育てたい力**

**活用できるソフトやアプリケーション等**

**問いをもてる力**

プロジェクタ 実物投影機 デジタル教科書 Scratch  
ミライシード：オクリンク SKYMENU Class：発表ノート

**問いを追究する力**

プロジェクタ 実物投影機 ミライシード：オクリンク  
SKYMENU Class：発表ノート Scratch

**自分の考えを表現する力**

プロジェクタ 実物投影機 ミライシード：オクリンク  
ミライシード：ムーブノート SKYMENU Class：発表ノート Scratch

見通しをもって学ぶ  
友達と協働しながら学ぶ  
自己の学びを振り返る

**実践事例集**

**育てたい力**

**1 問いをもてる力**

- 「なぜだろう」「疑問を解決したい」という強い思いをもてる児童。
- 学習課題を「自分ごと」としてとらえられる児童。
- 自分の考えの根拠を資料として提示できる児童。



**2 問いを追究する力**

- 見通しをもって学習に取り組める児童。
- 自ら学習計画を立てられる児童。
- ICTを活用しながら、学習課題について調べられる児童。



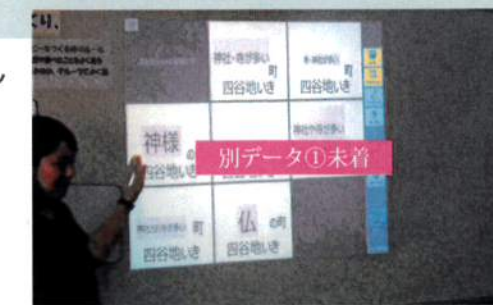
**3 友達と協働しながら課題を解決する力**

- ICTを活用して、自分の考えを友達に伝えられる児童。
- 友達と協働しながら、自分の考えを広げたり深めたりできる児童。



**4 プログラミング教育**

- 学習のねらいに沿って、プログラミングを活用しながら、課題を解決できる児童。



# 小学校1年 生活科 伝える写真をえらぼう!

単元名「がっこうだいすき」

1年1組 岡村 頼子



## 単元計画 (全13時間)

- 第1次 「みんなでがっこうを歩こう」  
担任や2年生と一緒に学校探検を行い、学校には支えてくれる人が多くいることに気づき、学校を好きになり、安心して楽しく学校生活を送る。
- 第2次 「がっこうたんけんにてかけよう」  
校舎内の各教室を探検し、見つけたことや不思議に思ったことを絵や文で表現する。
- 第3次 「おしえてあげるよがっこうひみつ」  
お家の方に学校案内する計画を立て、準備、実行をする。振り返りを行い、感想や気付いたことを表現する。
- 第4次 「もっとしりたいながっこうのこと、たんけんで見つけたひみつをはなそう」  
学校探検で見つけたことを2年生に伝えるために、各教室の写真を撮影する。ワークショップ形式で発表会を開き、伝える。

## 本時のねらい

- 学校には様々な施設があることや、多くの人が学校を支えてくれていることが分かり、安心して楽しく生活することができる。
- 2年生との交流に関心を持ち、自分の気づきや気持ちを伝えて、楽しく学校生活を送ることができる。

## 本時の展開 11/13時間

学習の流れ	主な学習活動	指導のポイント (ICT活用場面)
つかむ	○前時までの学習を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">はっぴょうかいで2ねんせいに つたえたいことをかんがえよう。</div>	・(前時まで)「SKYMENU Class:発表ノート」のカメラ機能を使って、各教室の写真を撮影して来る。 ① 前時までの活動を、写真を見ながら振り返る。
ひろげる	○「SKYMENU Class:発表ノート」を使い、班ごとの写真を見て、どれを発表用に使うたらよいか話し合う。	② リーダーとなる児童のタブレットPCで、撮影してきた写真一覧を表示して、その中から、伝えたい写真を選ぶ。(「SKYMENU Class:発表ノート」)
まとめる	○班ごとに、どんな写真を選んだのかを理由も併せて発表する。	③ 児童が発表するために、教師用タブレットPCに抽出した、班の写真を提示する。
みとおす	○選んだ写真を使って、次の活動をどうしていきたいか考える。 ○振り返りを書く。	

## ICT活用のポイント



1 「SKYMENU Class:発表ノート」を使い、前時までの活動を動画で提示して共有し、学習を振り返った。

児童が各教室を撮影した活動の場面を、「SKYMENU Class:発表ノート」を使用して、視覚的に分かりやすく提示したことで、前時までの活動を想起しやすくなった。

2 予め、前時までに児童が撮影した写真を「SKYMENU Class:発表ノート」の中に保存しておいた。児童は、「SKYMENU Class:発表ノート」内に保存された写真を、伝えたい内容に応じて選択して活用した。2年生にどの内容を伝えたいか、同じ内容の写真でもより良いのはどちらかという視点を与えて写真を選択できるようにしたことで、児童間の話し合いがより活発になった。

3 児童が発表する際には、児童が選択した写真を、教師用タブレットPCを通して提示した。発表時に「SKYMENU Class:発表ノート」を活用することで、児童の発表方法の幅が広がり、聞き手にとっても分かりやすいものとなった。

## 実践を振り返って

- 前時の振り返りに「SKYMENU Class:発表ノート」を活用することで、短時間で鮮明に学習を振り返ることができた。
- グループで「SKYMENU Class:発表ノート」に保存された写真を見て話し合うことで、友達の気づきにふれたり、自分の撮った写真のよさに気付いたりすることができた。友達と協働的に学び合うことで、考えを広げることができた。
- 全体の発表時に「SKYMENU Class:発表ノート」を使用することは、視覚的にそのグループの考えを全体で共有できることができ、より分かりやすく考えや気づきのよさを伝えることができた。

# ぼく・わたしの 野さいじまん!

単元名「おおきなあれわたしの野さい」

2年3組 大城 直穂



## 単元計画 (全10時間)

- 第1次 「野さいをそだてよう」  
図鑑や本を活用して、野菜に興味をもち、自分が育てる野菜を決める。苗を植え、記録カードに書く。
- 第2次 「野さいのせわをつづけよう」  
自分の野菜について調べ、発表したり、発表を聞いたりする。
- 第3次 「野さいをしゅうかくしよう」  
野菜を収穫する。
- 第4次 「野さいのことをまとめよう」  
記録カードなどで振り返りながら、これまでの栽培のことをまとめる。まとめたことをもとに報告会をする。

## 本時のねらい

- 野菜について調べたことや世話の仕方を発表したり聞いたりして、適切なお世話の仕方に気付くことができる。

## 本時の展開 6/10時間

学習の流れ	主な学習活動	指導のポイント (ICT活用場面)
つかむ	○前時のことを想起する。 野さいについてはっぴょうしよう。	1 プロジェクタで写真を複数提示する。発表の仕方、聞き方の確認をする。
ひろげる	○自分が育てている野菜について発表する。 ・クイズ ・野さいじまん ・ペープサート ・げき ○お世話の仕方について話し合う。	2 プロジェクタの拡大機能やマーカー機能を用いて、野菜についているいろいろな方法で発表できるようにする。
まとめる	○お世話の仕方について、上級生や主事さんのアドバイスを聞く。 ・水のやり方は葉っぱの上からじゃよくないんだよね。 ・わき芽があったから摘んだほうがいいね。 ・成長して倒れそうだから支えが必要だ。	3 事前に撮影しておいた上級生や主事さんの野菜のお世話の動画を提示し、お世話の仕方について大切な点を気付きやすくする。
みとおす	○振り返りをする。 発表等で聞いたことを参考にして、翌日からの野菜のお世話について考える。	

## ICT活用のポイント



1 導入では「プロジェクタ」を活用して、児童が育てている野菜の成長過程が分かる写真を提示した。複数の写真を全体に提示することで、児童は各写真を複数の視点から比較しながら見ることに繋がりと、植物の変化や成長の様子に気付くことにつながった。



2 「SKYMENU Class : 発表ノート」に保存した写真を提示して児童が発見したことや気付いたことを全体で共有した。「プロジェクタ」の拡大機能やマーカー機能を有効に活用し、個々の気付きを整理・分類したり比較したりすることが容易となった。



3 上級生や主事さんから聞いた野菜のお世話のポイントを整理した動画を事前にタブレットPCで撮影し、「SKYMENU Class : 発表ノート」に保存しておいた。児童は複数の動画を視聴して理解したポイントを活かして、次時以降、話し合いや発表をすることができた。

## 実践を振り返って

- プロジェクタを用いて可視化して資料提示をすることで、全体で共有することができた。
- 自分の育てている野菜のことを調べ、プロジェクタを用いて発表したことで、児童が意欲的に活動することができた。
- 上級生や主事さんのアドバイスを動画で視聴することで、自分のお世話の仕方を振り返ることができた。

小学校3年 社会科

キャッチコピーをつくり、発表ノートを使って特色を考えよう!

単元名「わたしたちの新宿区の様子」

3年1組 星尚美



単元計画 (全12時間)

第1次	第1時	新宿区の様子に興味をもつ。
	第2時	それぞれの疑問から学習問題を設定する。
	第3時	学習問題について予想し、解決するための学習計画を立てる。
第2次	第4～8時	落合地域・牛込地域・早稲田地域・四谷地域・新宿駅の周りについて調べて、まとめる。
	第9～10時	5つの地域のキャッチコピーをつくり、それぞれの地域の特色をまとめ、学習問題について考える。
第3次	第11～12時	新宿区のよさを伝えるパンフレットをつくる。

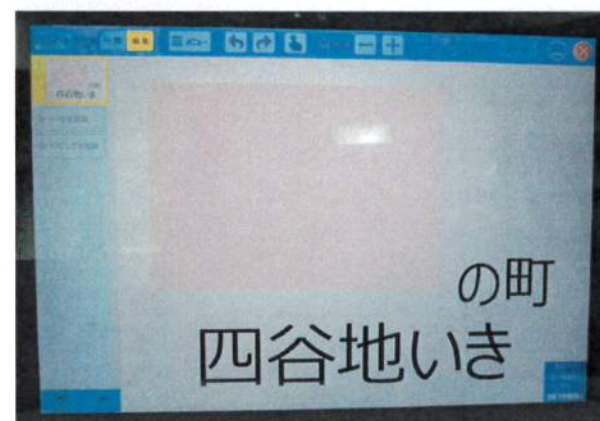
本時のねらい

5つの地域のキャッチコピーをつくり、学習問題に対する考えをまとめることができる。

本時の展開 10/12時間

学習の流れ	主な学習活動	指導のポイント (ICT活用場面)
導入	○前時に作成した「落合地域」「牛込地域」のキャッチコピーを確認する。	
展開	<p>5つの地いきのキャッチコピーをつくり、学習問題について考えよう</p> <p>○早稲田地域のキャッチコピーをつくる。 ○四谷地域のキャッチコピーをつくる。 ○新宿駅の周りのキャッチコピーをつくる。 ○5つの地域のキャッチコピーから特色をまとめ、学習問題について考える。</p>	<p>1 3～4人組の各班に1台ずつタブレットPCを渡し、キャッチコピーを入力するノートを配布する。余計な活動を減らし、考える時間を多く設けていく。</p> <p>2 相談しながらキャッチコピーを入力し、考えを深めていく。</p> <p>3 7つの班のキャッチコピーをタブレットPCから送信させた上でプロジェクタで映し出し、全部の班の考えが一目で比べられるようにし、特色を見つけ出しやすくする。</p>
まとめ	○学習の振り返りを書く。	

ICT活用のポイント



1 「SKYMENU Class : 発表ノート」の手書き入力機能を活用し、キャッチコピーを入力した。児童は、その後の発表を見通し、見やすさ伝わりやすさを意識して入力した。手書き入力の活用は、活動の効率化にもつながり、その後の話し合い活動に十分な時間をとることができた。



2 「SKYMENU Class : 発表ノート」上に入力したキャッチコピーは、タブレットPCの画面上で他の班のものも見ることができるようにした。短時間で全ての班の内容を共有することができるため、自分たちと他の班の内容を比較しながら新しい視点に気づき、思考の深まりにつながっていた。



3 班ごとに作成したキャッチコピーは、タブレットPCから教師機へ送信させプロジェクタで映した。全ての班のキャッチコピーを画面上で確認し、比較しながら相違点や共通点を見だし、地域の特色を考えた。

実践を振り返って

- 発表ノートの配布や提出にかかる時間が短縮でき、話し合い活動の時間を十分に確保することができた。
- 発表ノートでは全ての班の考えが一斉にホワイトボードに表示されるため、自分の班の考えと他の班の考えを比較しやすく、各地区の特色がより明確になった。

小学校4年 社会科

水の旅マップをオクリンクでつくって発表しよう

小単元名「くらしをささえる水」

4年1組 川上 りり子



この写真はマップに使えそうだからチェックしておこう。

単元計画 (全13時間)

第1次	第1時	人々の健康なくらしを守る働きに関心をもつ。
	第2・3時	家庭や学校でどれくらいの水を使っているのか調べ、色々な場面で水がつかわれていることに関心をもつ。
	第4時	わたしたちの生活に欠かせない水について学習問題をつくり学習計画を立てる。
第2次	第5・6時	わたしたちの家や学校に届く水はどのような過程を経ているのかについて、資料を活用して、概要を調べる。
	第7時	水源林やダムとそれを守る人々の仕事について資料を活用して調べ、働く人々の工夫や努力について考える。
	第8・9時	浄水場では川の水をきれいにする機能があり、そこで働く人々は様々な工夫や検査をしながら都民に飲料水などを提供していることを資料等を活用して調べる。
第3次	第10~12時	水の安定供給のために様々な取り組みについてまとめ、これらの事業や対策が健康な生活の維持や向上に役立っていることを理解し、水の旅マップにまとめる。
第4次	第13時	世界の水道事情を知り、水を大切に使うために自分たちができることを考える。

本時のねらい

- 水の安定供給のための様々な取り組みについてまとめたものを発表し合い学んだことを確かなものにして、学習問題について考えることができる。
- 世界には様々な水事情があることを知り、今後自分たちにできることは何かを考えることができる。

本時の展開 10/12時間

学習の流れ	主な学習活動	指導のポイント (ICT活用場面)
導入	○前時までの学習を想起する。	・ (前時まで) オクリンクで一人1枚旅マップのスライドをつくる。
展開	<p>自分たちで作った「水の旅マップを」発表し合っ、学習問題について考えよう。</p> <p>○ミライシード:オクリンクで「水の旅マップ」を発表し合い感想交流をする。</p> <p>○学習内容を全体で確認する。</p> <p>○学習問題に対する自分の考えをまとめる。</p> <p>○世界の水道事情の資料を提示し「水の大きさ」「健康と水」について考えさせる。</p>	<p>1 ペアグループに自分のグループの旅マップを送信し発表する。感想交流をする。</p> <p>2 教師用タブレットに抽出した一つのマップを送らせ全体でマップの内容を確認する。</p> <p>3 電子黒板機能を使い資料を投影し全体で考える。</p>
まとめ	○学習の振り返りを書く。	

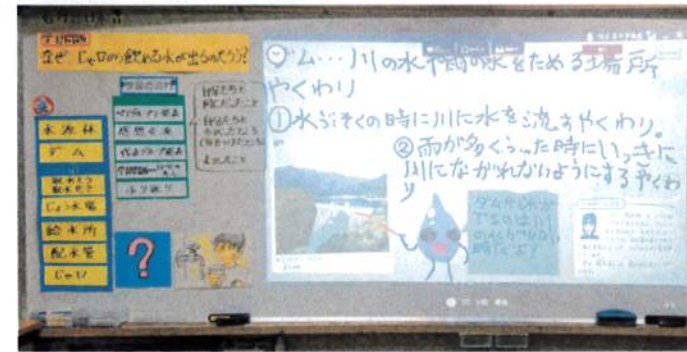
ICT活用のポイント



水道水源林は緑のダムと呼ばれています。

私たちのマップにも「緑のダム」の説明を入れたね。やっぱり大切なんだ。

1 児童は、それまでの調べた内容を「ミライシード:オクリンク」を活用して「水の旅マップ」にまとめた。「ミライシード:オクリンク」によって、それまでに学んできた内容を容易に蓄積することができ、児童が学びの過程を振り返ることにつながった。また、発表の際には、マップを他の児童の「タブレットPC」に送信して発表し、**分かりやすく発表するためのツールとして、「ミライシード:オクリンク」**を活用した。



2 教師は、「ミライシード:オクリンク」の**送る機能**を活用して、児童が作成したマップの中からいくつかの作品を抽出し、全体で内容を共有した。児童の**作品の提出や抽出が容易にできるため、ポイントとなる内容を確実に全体で共有**することができた。



3 「プロジェクト」を活用して、社会について考える中心資料を提示した。児童は**鮮明でインパクトのある提示によって、世界の水道事情について、驚きをもって捉える**ことができた。

実践を振り返って

- 必要な写真資料やグラフなどをタブレットPCで取り込めるので手間なくカードを作ることができた。
- 友達同士でカードを送り合い、グループで思考し、協働的に学び合ったので、考えを広げることができた。
- グループ間でマップを送り合い、自分たちのマップと比較することで、自分の考えを深めることができた。

小学校5年 社会科

# 自分の考えをタブレットで伝えよう!

小単元名「あたたかい土地の暮らし」

5年1組 山本 将司



## 単元計画 (全6時間)

第1次	第1時	沖縄県の気候や人々の暮らしについて知ろう。
第2次	第2時	沖縄県の家のつくりについて比べ、学習問題をつくり学習計画を立てる。
	第3時	温暖な気候を生かした産業が営まれていることを調べよう。
	第4時	沖縄県の自然環境や文化の特色について調べよう。
第3次	第5時	これまで学習問題に対しての自分の考えをまとめよう。
	第6時	学習したことを基に新聞にまとめて発表しよう。

## 本時のねらい

沖縄県と東京都の2月の写真の比較や沖縄に暖房器具が必要か考えることを通して、沖縄県の気候や人々の暮らしに関心をもつことができる。

## 本時の展開 1/6時間

学習の流れ	主な学習活動	指導のポイント (ICT活用場面)
導入	○東京都と沖縄県の写真を比較して読み取り、地図帳を使い、沖縄県がどこか調べる。  沖縄県では、暖房器具が必要でしょうか。	1 プロジェクタを活用して、複数の写真を活用して写真を読み取る。
展開	○予想するのに必要な情報を提示して冬の沖縄県で、暖房器具を使う理由を予想し話し合う。 ○「ミライシード：オクリンク」を使い意見を交流する。	2 「ミライシード：オクリンク」を活用して、隣の友達と話し合うことで、考えが変化したり、取り入れたりすることができた。 3 「ミライシード：オクリンク」を活用して全員の考えを知ることができて、自分の考えを深めることができた。
まとめ	○学習感想を書く。	

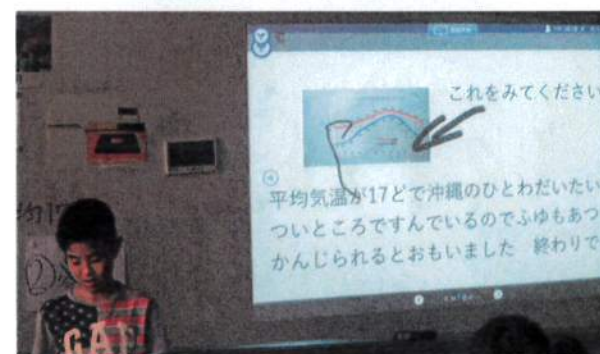
## ICT活用のポイント



1 資料提示の際に、「SKYMENU Class：発表ノート」を活用し、2月の東京都と沖縄の海開きなど複数の写真を比較しながら読み取った。写真を提示する際には、「プロジェクタ」を活用し、児童が必要な情報を確実に読み取ることができるように工夫した。



2 課題に対する予想を「ミライシード：オクリンク」に入力した。児童はペア、グループ、全体、立ち歩きタイム等、多様な学習形態の中で、「タブレットPC」に入力した内容を相手に示しながら伝えた。交流を通じて新しい視点に気付いたり、考えが変化したりした際には、思考の変化に合わせて瞬時に修正や追加をすることができた。



3 個々の児童が考えた内容を「ミライシード：オクリンク」に入力したことで、一部の児童だけでなく、全ての児童の意見を全体で共有することができた。主体的に学習に参加しようとする意識が高まった。

## 実践を振り返って

- 「プロジェクタ」を活用して、東京都の雪の写真、沖縄県の海開きの写真等、複数の写真を比較することで、児童が葛藤する中で、自分たちの住む東京都比べて、沖縄県の気候や暮らしがどうなっているのだろうと疑問をもてる資料提示ができた。
- 「ミライシード：オクリンク」では、全ての児童の考えが一斉にホワイトボードに表示されるため、自分の考えと友達の考えを比較しやすかった。また、友達との交流を通して、自分の考えを瞬時に修正でき、さらに自分の考えを深めることができた(3の写真のように、資料を基に、自分の言葉で発表でき、沖縄県に対して関心を高めることができた。)

小学校5年 音楽科〈図画工作科との合科〉  
Scratchを使ってテーマに合った音楽をつくらう

単元名「日本の音階で旋律づくり」  
5年2組 小田与志子（T1）香取桜子（T2）



単元計画（全8時間）

第1次	第1時	「さくらさくら」に使われている5音音階で旋律づくりをする。
	第2時	自分たちの音楽のイメージをもとにリズム伴奏をつくる。
	第3・4時	プログラミングソフト「Scratch」でリズム伴奏と旋律を入力する。
第2次	第5時	構成を工夫してまとまりのある音楽をつくる。
	第6時	音色や速度を工夫して自分たちのテーマに合う音楽を完成させる。
	第7時	自分たちの音楽のイメージにあった抽象画を描く。（図画工作科で2時間）
第3次	第8時	つくった音楽や抽象画のよさを味わいながら鑑賞する。

本時のねらい

音色の組み合わせを工夫して、自分たちのイメージに合った音楽をつくる。

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動	指導のポイント（ICT 端末活用場面）
感じ取り 見通しをもつ	○音色の変化による雰囲気の違いを感じ取る。  音色を工夫して音楽を仕上げよう。	1 音色を変化させた教師の例示を紹介し、ワークシートをもとに音楽づくりの見通しをもたせる。
工夫する	○旋律の音色、リズム伴奏の音色の変更の仕方を知り、自分たちのイメージの音楽をつくる。	2 4人1組でプログラミングソフト「Scratch」を活用し、話し合いながら考えを深める。 3 自分たちのイメージに合う音色選びの観点を重視し、様々な音色を繰り返し試させる。
伝え合う	○仕上がったいくつかのグループの作品を聴き合い、良さを伝える。	

ICT活用のポイント



1 導入では、旋律やリズム伴奏カードを組み合わせたワークシートを使いイメージを確認した。  
「Scratch」を活用して音色を聴き比べられるようになったことで、児童は同じ旋律でも雰囲気が変わることを感じ取ることができた。



2 「Scratch」を活用し、旋律やリズムをつなげてグループで音楽づくりを行った。「Scratch」で作成した旋律やリズムを児童が繰り返し聴きながら意見交換することで、自分たちの考えを深めてイメージに合った音楽をつくることにつながった。



3 音色の組み合わせを工夫して、自分たちのイメージに合った音楽をつくるために、あらかじめ「Scratch」の「音」「イベント」の機能に限定して活用させた。児童が演奏したことのない様々な楽器の音色を繰り返し聴くことで音の組み合わせを工夫することができた。

実践を振り返って

- 各自の曲のイメージを、旋律やリズムカードを組み合わせることで、自然にグループでの音楽的構成をつくり上げることができた。
- 音楽に苦手意識がある児童でも、「Scratch」を活用することでつくりたい曲のイメージを確かめることができた。また、繰り返し音色を聴いて試行しながら友達と意見を伝えて合うことを楽しんで学習できた。



小学校6年 社会科

発表ノートを使って自分の考えを広げたり深めたりしよう

小単元名「武士の世の中へ」

6年1組 藤江 智美



単元計画 (全6時間)

- 第1時 武士の生活の様子、武士と貴族との違い、武士の思いや願いについて関心をもち、学習問題を話し合う。
- 第2時 平氏や源氏といった武士団が力を付け政治を動かすようになったこと、源平合戦で源氏が平氏に勝利し、源頼朝が鎌倉に幕府を開いたことを資料から読み取る。
- 第3時 鎌倉幕府がご恩と奉公の関係で武士たちを従え、西国にまで力が及ぶようになったことを資料から読み取る。
- 第4時 鎌倉幕府が衰退した理由や元寇の後、幕府と武士との信頼関係が崩れていったことを資料を基にして考え、話し合う。
- 第5・6時 鎌倉時代について学習したことを人物関係図にまとめ、発表する。また、鎌倉時代について学習理解したことを自分なりの言葉でまとめる。

本時のねらい

- 武士による政治が始まったことを理解するとともに鎌倉時代の人物の願いや働き、代表的な文化遺産の意味について考えることができる。

本時の展開 10/12時間

学習の流れ	主な学習活動	指導のポイント (ICT活用場面)
導入	○寝殿造と武家造の違いを、「SKYMENU Class:発表ノート」を使って発表する。	・寝殿造と武家造の絵図を送信し、ペアで考えを記入できるようにする。
展開	<p>貴族や武士との暮らしや違いを調べ、学習問題を考えよう。</p> <p>○「平安物語絵巻」について「SKYMENU Class:発表ノート」を使って友達と気付いたことや考えを共有する。</p> <p>○学習を通して疑問に思ったことやもっと知りたいことを発表し合う。</p> <p>○学習問題を立てる。</p>	<p>1 「平安物語絵巻」を送信し、ペアで考えを記入できるようにする。</p> <p>2 発表ノートを使い、ペアで考えたことを全体に共有できるようにする。</p>
まとめ	○学習の振り返りを書く。	

ICT活用のポイント



1 「SKYMENU Class:発表ノート」を活用して寝殿造と武家造の資料を読み取った。「SKYMENU Class:発表ノート」は、資料の比較が容易であるため、児童は違いに気付きやすく、武士の生活の様子に対してスムーズに問いをもつことができた。



2 児童は資料から「気付いたこと」「分かったこと」「疑問に感じたこと」を「SKYMENU Class:発表ノート」上の資料に直接書き込んだ。考えたことを即座に書き込んでグループで共有できるため、グループの話合いが活発になり、主体的・対話的な活動を行うことができた。



3 児童が資料から読み取り、まとめたものを「SKYMENU Class:発表ノート」を活用して読み取った内容を学級で共有した。グループの考えを全体で共通確認できるため、内容の整理が容易であった。

実践を振り返って

- 「SKYMENU Class:発表ノート」を活用した資料提示によって、主体的に考えたり、自分の考えを友達に伝えたりすることができた。また、友達と資料を共有して積極的に話し合うことができた。
- 学習問題を立てる上で、「SKYMENU Class:発表ノート」を活用した資料提示にすると、児童の考えが広がったり、深まったりするので有効である。